



➡ 森津 千尋 (准教授)

東京が2020年夏季五輪の開催地に決定したのは2013年9月である。それまでもオリビックについての研究は展開されてきたが、この6年余りで研究の数はさらに増加し、その主流は、1964年の東京大会など「過去」の大会を振り返り、日本におけるオリビックの社会・文化的意味について考察する研究である。

では「未来」の2020年東京大会への展望はどうか。国際交流や経済効果など「明るい未来」

オリビック「どうせやるなら派」

が謳われる一方で、開催自体を問う研究もいくつか存在する。

今回紹介する『反東京オリビック宣言』もそのなかの1冊である。編者の一人である小笠原博毅は、そもそも近代オリビックは、到底達成不可能な理想を掲げて発明され、やればやるほど矛盾が培養されるという。そして、そのオリビックを生き残らせているのは、積極推進派ではなく、「初めは批判的」だが開催が決定してしまえば「新しい発想」

で「市民のため」とオリビックに便乗する、多数の「どうせやるなら派」だと批判する。ここには研究者も含まれ、私にとっても耳の痛い指摘である。

日本中がお祭りムードになっていくなか、誰も異議申し立てしなくなることの危うさを訴える本書だが、開催年だからこそ、改めて読むべき一冊ではないだろうか。

～紹介図書～

『反東京オリビック宣言』
航思社/小笠原博毅・山本敦久編著/2016



➡ 川瀬 和也 (助教)

哲学・倫理学の視点からオリビックを見ると、様々な疑問が見えてくる。

たとえば、オリビックでは男性と女性の競技が分かれているが、これは倫理的に正しいことなのだろうか。もし、男女で体格が違うから分けているというのなら、性別ではなく体格で競技を分けるべきではないのか。あるいは、ドーピングの禁止が本当に正当化されるのかも問題になる。健康上の懸念があるとす

「スポーツ哲学」を読んでみよう

るなら、ケガにつながりかねない過酷なトレーニングも禁止すべきではないか。

スポーツの価値や目的に関する問いもある。私は勝利を目指して行われるゲームとしてスポーツを理解する見解に惹かれる。しかし、この見解を「勝利至上主義」として批判し、スポーツには人間としての技能を卓越させるという特別な価値があると主張する研究者もいる。

これらの問いを体系的に扱う分

野に、「スポーツ哲学」、「スポーツ倫理学」がある。今回紹介する『スポーツ哲学の入門—スポーツの本質と倫理的諸問題』は、この分野の定評ある入門書。私が挙げた問いもこの本の中で扱われる。オリビックを見るための違った視点を与えてくれるだろう。

～紹介図書～

『スポーツ哲学の入門—スポーツの本質と倫理的諸問題』
ナカニシヤ出版/
シェリル・ベルクマン・ドゥルー著・川谷茂樹訳/2012

学生紹介

vol.9では、より学生の皆さんに手に取ってもらいやすい紙面づくりを目指し、表紙のデザイン原案を学生から募集しました。

原案を作成してくれた学生さんからひと言

普段から、絵を描くことが好きでストレス発散にもなるので、今回の原案作成の話があり、やってみようと思い取り組みました。

2020年は東京オリビックが開催される記念すべき年なので、屋内・屋外競技、障害者スポーツなど様々な競技を描きたいと思いました。特に、パラオリビックの選手は細かいところをイメージすることが難しく、実際に競技を行っている写真や動画などを見て研究しました。



大橋 志織 さん
(3年 田宮ゼミ)

Camellia Vol.9

—図書館広報紙—

【CONTENTS】

図書館を使いこなそうP.2~3

ミニコラム～国際教養としてのオリビズム～P.4

学生紹介P.4

オリビックイヤー
国際教養としての
オリビズム



宮崎公立大学附属図書館

! 注意

注意

A stylized illustration of a woman with dark hair in a braid, wearing a green long-sleeved shirt. She is pointing her right index finger upwards, and a glowing yellow lightbulb with radiating lines is positioned above her hand, symbolizing an idea or inspiration.

注意



NEW

国立国会図書館のデジタル化資料のうち、絶版等の理由で入手が困難な資料を図書館カウンターのパソコン端末で閲覧できるようになりました。必要に応じてコピーも可能です。サービス利用には、ID・PWが必要なため、利用の際は図書館職員にお声がけください。